

共同利用・共同研究課題「アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究(3)」(jrp000293) 2025 年度第 1 回研究会 (通算第 3 回目)

2025 年 6 月 14 日 (土) 13:00-17:50

札幌学院大学 3 号館 3 階 3310 会議室+オンライン

3 回目となる今研究会では、4 件の発表と、発表に関する質疑応答・情報提供、全体討論を行った。当日のプログラムは以下のものである。

13:00-13:10 奥田統己 (AA 研共同研究員, 札幌学院大学) 開会, 趣旨説明

13:10-14:00 萩尾生 (東京外国語大学) 「バスク語アカデミーとデータ・アーカイブの現状ーバスク語関連資料のアーカイブ化と公開を見据えてー」

14:10-15:00 児島恭子 (AA 研共同研究員), 阿部佳恵 (AA 研共同研究員) 「AA 研所蔵アイヌ語調査・採録フィールドノートの整理について」

15:20-16:10 小林美紀 (AA 研共同研究員, 国立アイヌ民族博物館) 「アイヌ語関連アーカイブからの用例収集における課題」

16:20-17:10 奥田統己 (AA 研共同研究員, 札幌学院大学) 「AA 研所蔵アイヌ語資料の整理の現状・成果と今後の方針について」

17:20-17:50 総合討論

今回は AA 研所蔵アイヌ語資料に含まれる, バスク語関連資料に関する内容の精査とその取扱いについて, バスク研究者であり, 故・田村すゞ子氏が収集したバスク語関連資料の整理に外部から関わっていただいている萩尾生氏 (東京外国語大学) をゲストに招き, 状況を報告していただいた。同時に, 王立バスク語アカデミーおよび同アカデミーによるバスク語資料アーカイブの現状についても紹介いただき, AA 研所蔵アイヌ語資料内のバスク語関連資料についてどのように今後取り扱うべきか, 参加メンバー全員で協議した。

このほか, 児島・阿部および奥田からは AA 研所蔵アイヌ語資料の整理状況の報告とそれに関連する問題提起がなされた。小林はアイヌ語表現における標準化の是非に関する問題点について報告した。

以上の報告をふまえ参加メンバー全員で討論をおこなった。

(文責: 山越康裕)

※当報告の内容は、報告者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.